

(3) 乗用車のべ利用人数の推計結果

推計のための将来想定

地域内乗用車分担率モデルに用いる説明変数の将来値は、以下の通り想定した。なお、将来を想定した説明変数は、1人当り乗用車保有台数、将来の性別・年齢階層別・免許保有別のトリップ構成比とし、それ以外については現況値で固定した。

表 モデルで用いた将来想定方法と説明変数

区分	変数名	出典	想定	
土地利用特性	市街化区域	全国PT調査時の収集データ	1999年現況値に固定	
	近隣商業・商業(商業系用途地域)	同上	1999年現況値に固定	
鉄道整備水準	鉄道駅密度(駅数/km ²)	駅数はDRM等より作成	1999年現況値に固定	
自動車保有水準	1人当り自動車保有台数	保有台数はH11道路交通センサス、人口はH12年国勢調査(総務省統計局)	第3章に示す国立社会保障・人口問題研究所推計の将来人口と4-6節に示す将来乗用車保有台数より設定した	
道路交通特性値	路線バス関連	バス路線延長率	同上	1999年現況値に固定
		バス専用レーン延長率	同上	1999年現況値に固定
	歩道自転車道整備	歩道設置延長率	同上	1999年現況値に固定
		自転車通行帯延長率	同上	1999年現況値に固定
トリップ特性値	性別(男性、女性構成比)	H11全国PT、H11新都市OD	4-2節で設定した旅客全交通機関輸送人数の性別トリップ構成比を使用	
	年齢(14歳以下、15～64歳、65～構成比)	同上	4-2節で設定した旅客全交通機関輸送人数の年齢階層別トリップ構成比を使用	
	免許(免許保有、非保有構成比)	同上	4-2節で設定した旅客全交通機関輸送人数の免許保有別トリップ構成比を使用	
	OD区分(市町内々・内外トリップ構成比)	同上	1999年現況値に固定	

推計結果

a) 乗用車分担率の推計結果

想定値に基づく将来目的別乗用車分担率(年間値)は次頁の通りとなる。

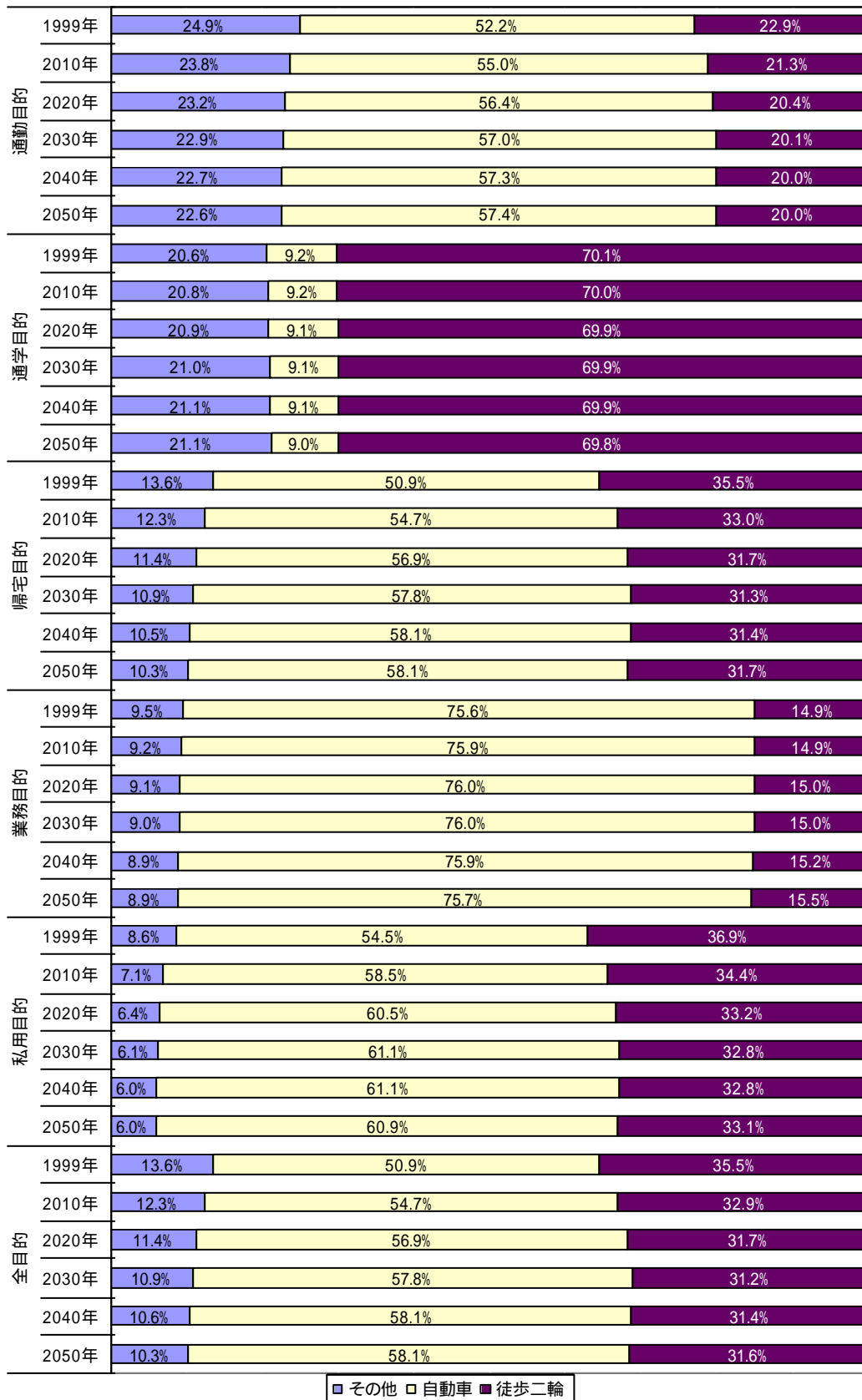


図 将来目的別乗用車分担率

b) 乗用車のべ利用人数の推計結果

推計された目的別全機関のべ利用人数に、目的別乗用車分担率を乗じて将来の乗用車のべ利用人数を推計した。

また、乗用車のべ利用人数キ口、乗用車走行台キ口を推計する際、総流動データである道路交通センサスに整合させるため、推計した純流動ベースの乗用車のべ利用人数を、総流動ベースの乗用車のべ利用人数に変換した。

ここでの純流動総流動変換比率は、平成 11 年度全国都市 P T 調査より、平日・休日別、目的に設定し、将来も一定とした。

表 純流動総流動変換比率

	通勤	通学	帰宅	業務	私用		総計
					家事・買物	観光・レジャー	
平日	1.05	1.25	1.04	1.02	1.02	1.02	1.03
休日	1.03	1.11	1.03	1.02	1.02	1.02	1.02

c) 乗用車のべ利用人数の純流動から総流動への変換

表 乗用車のべ利用人数推計結果 (億人/年)

	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
乗用車のべ利用人数	546	604	644	643	620	589

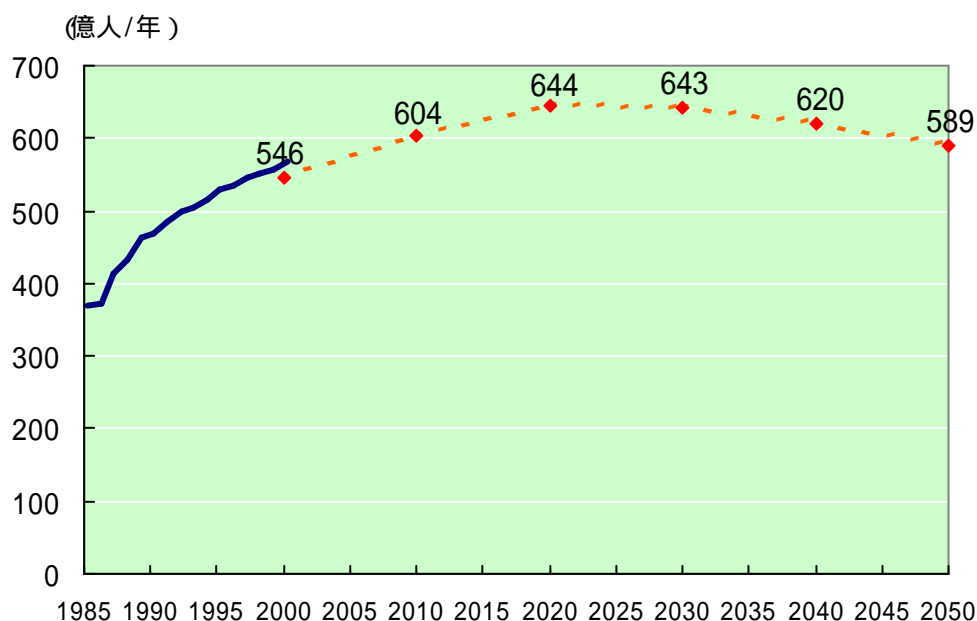


図 乗用車のべ利用人数の推計結果